

> オンプレおよびクラウド環境の 透過的バックアップと 災害対策を一度に実現

バックアップ容量は約63%減、C to Cサーバ移行もArcserve UDP活用で楽々クリア



ユーザープロフィール

業 種: 出版業
会社名: 株式会社保健同人社



課 題

業務拡大ならびに時代の変化に伴い、オンプレミス、データセンター、クラウドストレージと環境も複雑化。サーバや環境単位でバックアップソフトのバージョンや設定方法が異なる場合もあり、運用への負荷も増大傾向になっていた。バックアップは主にデータセンターに設置したNASに取得していたが、データ容量の増大とともにバックアップを伴う運用や保守の課題が明確に増えていった。

経 緯

中期経営計画に従い、抜本的なネットワークインフラ環境の刷新にも計画的に着手を開始。バックアップ運用ではオンプレミスサーバとクラウドサーバのバックアップ運用をクラウド上で一元化するとともにクラウド上でレプリケートできる体制を整えたいと考え、それが実現できるArcserve UDPを採用した。

導 入

同社の全拠点が新しいVPNサービスに接続されたタイミングでArcserve UDPの利用を開始。その後、クラウド環境の移行が発生したが、このときArcserve UDPのバックアップデータを活用して、C to Cサーバ移行が実現した。その方法も、サーバを構築してOSの準備ができればArcserve UDP側から移行先を指定して実行するだけという簡単さだった。

効 果

現在、一元的バックアップ運用と、クラウド上のデータレプリケーションによるBCP対策も実現。また、Arcserve UDPの重複排除機能により、バックアップ容量が4Tバイトから1.5Tバイトへと約63%も削減した。ストレージに大きな余裕が生まれたため、仮想サーバ用にリソースを振り向けることができた。



「働き方の多様性」実現に向けたインフラ環境構築を推進

科学的根拠に基づいた医療および医療周辺情報の発信を通じ、国民ひとり1人のヘルスリテラシー向上をサポートする株式会社保健同人社。同社では、中期計画に基づき、営業や事務などの社内業務用ネットワークインフラにおいて、時代の求めに応じて柔軟に継続して対応していける環境への移行を検討していた。

品質向上はもとより、セキュリティ対策、管理コストの最適化、さらにはデータセンターからの完全撤退を必須要件とした中、ソフトバンクが提供する「SmartVPN」、IaaS サービス「ホワイトクラウド ASPIRE」とともに、バックアップ運用の効率化を実現するべく「Arcserve Unified Data Protection (以下、Arcserve UDP)」を導入。「働き方の多様性」実現に向けたインフラ環境構築を推進している。

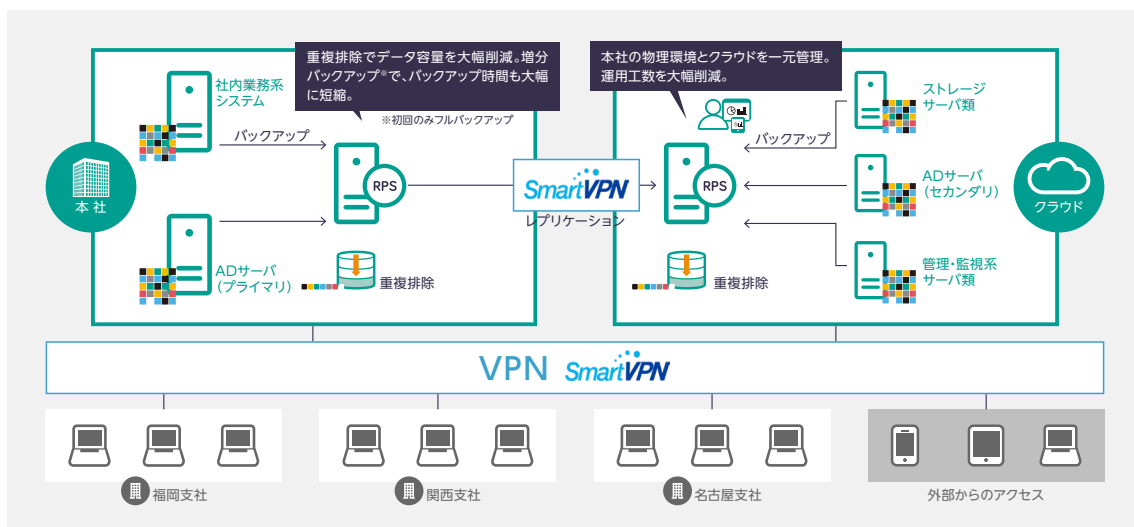


株式会社保健同人社
経営管理部 経営企画グループ
情報システムチーム 兼 業務グループ
阿部 崇史 氏

中期計画に基づき、ネットワークインフラとともにバックアップ体制の刷新に着手

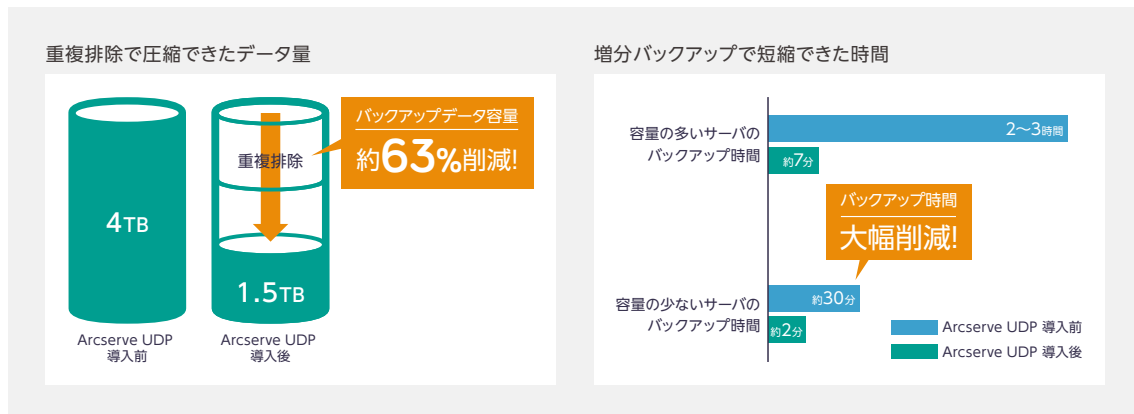
2014年、同社ではインフラ環境の再構築のあたり、情報システム管理者の運用負荷が課題の一つとなっていた。特に問題だったのは業務システムのバックアップにかかる作業の煩雑複雑さ、および作業時間だ。オンプレミス、データセンター、外部ストレージで運用していたサーバについて夜間に行うバックアップに時間がかかっており、バックアップ時間がかぶらないようサーバごとに時間をずらすなどのこまめな設定変更が日常的に不可欠だった。また、サーバの購入時期により、それぞれにインストールされているバックアップソフトのバージョンや設定項目が異なるため、サーバごとの操作やスケジューリングなどが複雑で一元管理できず、属人的な運用となっていたのである。

Arcserve UDP 導入により透徹的なバックアップ体制を確立





バックアップのデータ容量と時間を大幅削減



バックアップデータ自体はデータセンター内に設置していたNASに全サーバ分を取得するとともに、基幹系サーバについては別途オンプレミスでバックアップを取るなど対策は講じていたが、それでもバックアップ先がデータセンターのNASのみのデータについては、ハードウェア故障の際にバックアップ動作の担保が難しい状況だった。さらに、バックアップ先が物理環境であることで、ハードウェアのメンテナンスも必要となっていた。

これらの課題を踏まえ、情報システムチームは中期計画に基づき、営業や事務などの社内業務用ネットワークインフラとともにバックアップ体制の刷新に着手する。

オンプレミスとクラウド環境の透過的バックアップが実現できたArcserve UDP

ネットワーク環境の刷新における同社の基本方針は、次の通りだ。1) 通信品質への信頼。2) 現在進行形でサービスが改善されているもの。3) 拡張性の高さ(セキュリティ面、その他サービスとの連携など)。4) 外部からのセキュアな接続に対する選択肢の豊富さ。5) 働き方の多様性に対応可能な可能性。6) 担当営業への信頼(提案型で、かつ、一緒に困難を解決してくれるチームの有無)。これらの要件を満たすべくVPN回線の比較・検討を行ったところ、ソフトバンクが提供する「Smart-VPN」が最もコストパフォーマンスが良かったため採用に至った。

バックアップに関しては、1) サーバごとに異なるバックアップ・アプリケーションのバージョンや設定の統合と一元管理。2) バックアップデータの世代管理と容量の可視化。3) オンプレミス環境とクラウド環境のバックアップシステムの統合と一元管理。ができる体制を整えたいと考えており、情報システムチームがソフトバンク側にバックアップ運用の要件を伝えたところ、Arcserve UDPの名前が挙がった。

株式会社保健同人社 経営管理部 経営企画グループ 情報システムチーム 兼 業務グループ 阿部崇史氏はシステム選定のプロセスを次のように述懐する。

「実現したかったのは、オンプレ環境およびクラウド環境双方のバックアップ運用の一元管理です。それまで、基幹系サーバはオンプレミス環境でバックアップを取得して、それをデータセンター側にコピー転送していましたが、今回の刷新では、全サーバ環境のバックアップ運用を一元化したいと思っていました。Arcserve UDPなら、これらの要件を満たすことが分かり採用を決定しました」

2016年1月、同社の全拠点がSmartVPNに接続されたタイミングで、バックアップソリューションはArcserve UDPに切り替えられた。このとき利用していたクラウドはvCloud Airだった。しかし、提供者であるVMwareが日本ロケーションからの提供を終了したため、同社はソフトバンクのホワイトクラウド「ASPIRE」へ移行。実は、このときのサーバ環境移行にはArcserve UDPのバックアップデータが活用された。いわゆる「C to C」でデータが移されたのだ。



「サーバ3台をArcserve UDPのバックアップデータを使って“C to C”移行しました。その方法も非常に簡単で、サーバを構築してOSの準備ができればArcserve UDP側から移行先を指定して実行するだけなので、トータル4時間ぐらいで終わってしまっただけで拍子抜けするほどでした。このソリューションに変えてよかったと思った瞬間ですね」(阿部氏)

重複排除機能によりバックアップデータの容量が約63%も削減

サーバの統廃合が進み、現在は全てのサーバがバックアップ運用の対象として一元管理されている。構想どおり、オンプレミス環境のサーバはいったんオンプレミスで、クラウド環境のサーバはクラウド側でいったんバックアップを取ったあと、両者で同期を取ってさらにクラウド環境にレプリケートされる。これにより、サーバごとに異なるバックアップ・アプリケーションのバージョンや設定の一元管理と、オンプレミス環境とクラウド環境のバックアップシステムの統一を実現した。

「バックアップ状況・設定の一元管理がしやすくなりました。特に各サーバの設定を管理サーバから修正できるのは非常に便利です」(阿部氏)

導入の効果は数字にも表れている。バックアップデータ容量は、Arcserve UDPの重複排除機能により、4Tバイトから1.5Tバイトへと約63%も削減した。これは阿部氏も想像以上だったようだ。結果的にサイジングしたストレージに大きな余裕が生まれたため、後から構築した仮想サーバ用にリソースを振り向けることができた。

さらに、バックアップ時間も大幅に削減された。例えば増分バックアップでは、容量の少ないサーバで、これまで約30分かかっていたものが約1～2分に、容量の多いサーバでは2～3時間かかっていたものが、5～7分になっている。これにより、導入前のようなバックアップ時間がオーバーラップする事態は解消した。

今後同社では、リストア工程をマニュアル化することで復旧を属人化しないようにし、災害時等も情報システム部門員のいずれかと連絡が付けば復旧できる環境を整えていく予定だ。ネットワーク環境という観点でも、SmartVPNの導入より社外からのシステム環境へのセキュアなアクセスが実現。まさに刷新したシステム環境が「働き方の多様性」実現に向けたインフラ環境構築を推進している。



株式会社保健同人社
経営戦略グループ グループリーダー 兼
経営管理部 経営企画グループ グループリーダー
唐澤俊嗣氏(右)
経営管理部 経営企画グループ
情報システムチーム 兼
業務グループ
阿部崇史氏(左)

arcserve®

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。
製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
Copyright ©2018 Arcserve(USA), LLC. All right reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
Arcserve ジャパン ダイレクト 0120-410-116 (平日 9:00～17:30)
JapanDirect@arcserve.com

Arcserve.com/jp

検索

WEBサイト: www.arcserve.com/jp
※記載事項は変更になる場合がございます。2018年2月現在